

令和6年度 豊島区立豊成小学校 学校経営方針

校長 山本 知範

1 豊成小学校教育目標

人権尊重の精神を常に心に刻み、地球規模で物事を考え、コミュニケーション能力を伸ばし、心身ともに強く、たくましく生きる児童を育てる。

○（ほ）本気の学び ◎（う）美しい心 ○（せ）世界に広がる ○（い）いっぱいのお夢

教育目標の実現に向け「豊島区教育ビジョン2019」「豊島の子七か条」「豊島教員ミニマム」を教育活動に生かす。

2 めざす学校像

教育目標の実現を図りつつ、児童にとって、教職員にとって「自分の居場所だと思える学校」そして、保護者および地域の方にとって通わせてよかった、あつてよかったと思える学校づくりを目指す。

3 教育目標の実現と自分の居場所だと思える学校づくりに向けて

(1) 児童にとって「自分の居場所」となるために

<豊かな心を育む>

①「美しい心」の育成

「美しい心」とは「本気の学び」にきちんと向かう人間性と、清らかに互いのよさを認め合う態度であると考え。そしてそれは、学校や社会の中で自分も他人も楽しく生きていくために必要なものである。この「美しい心」を教育活動のあらゆる場面で育成していく。

本気の学びに向かって自分を向上させるために「努力する心」、級友や下学年児童の気持ちを考え、認め合える「思いやりの心」が、「美しい心」の具体的な姿であると捉えている。

また、本校は日本語学級を併設しており、外国人児童が多数在籍している。異文化を受け入れる「共生の心」を育成するための機会に恵まれているといえる。そこで、「思いやりの心」の中に、この「共生の心」を育むことも大切にしていく。

自分の良さを発揮し、自己実現ができ、お互いを認め合える場。それが自分の居場所である。その土台となるものが「美しい心」と考える。

② いじめ・不登校防止対策の推進

「いじめの定義」を全教職員が共通理解し、軽微ないじめも見逃さず、いじめの早期発見・対応を組織的に推進する。（スピーディーでスムーズな対応）

また、登校することに抵抗を感じている児童に早期に対応し、保護者やスクールカウンセラー、関係機関と連携し、児童の心に寄り添って最善を尽くす。

③学習規律・生活規律の確立

「豊成小 よい子の約束・学びの約束」について、全教職員・全児童の共通理解をし、年間を通してしっかりと身につけさせるよう取り組んでいく。

④特別支援教育の充実

一人一人の児童の実態を踏まえ、学校・保護者の共通理解のもと、特別支援教室や関係機関との連携を密にし、一人一人の特性に合わせた成長を目指す。互いの個性を認め合う心を醸成する。

⑤異年齢集団活動の充実

異学年交流活動などを通して、下級生を思いやる心、上級生を尊敬する心等を育成し、児童同士の関係の中で「美しい心」が育つようにする。

⑥「こどもスキップ豊成」との連携

情報交換を密にするとともに、スクールスキップサポーターとも連携して、いじめ問題の解消等、一体となって児童の健全育成を図る。

⑦SDG s の学びの充実

(株) 良品計画の他、民間企業と連携し、自分たち一人一人ができることについての学びを深めさせ、未来の担い手としての意識をもたせていく。

＜学力・体力の充実＞

①授業改善への組織的な取り組み

教職員同士が日常的に互いの授業を見合い、意見交換を通して授業改善を進める。また、全教職員が年間一つ以上の研究発表会や研修会、研究会へ参加する。

②I C T機器の積極的な活用

児童が「主体的・対話的で深い学び」を進めていけるよう、タブレット型P Cを効果的に活用していく。

③読書の励行・学習情報センターの活用

図書館司書と連携し、読書に親しむ児童を育てる。学習情報センターを積極的に活用する。

④自分の健康や体力に関心をもつ

体育の授業を通して運動の楽しさを味わわせるとともに、全校で縄跳びやマラソンに取り組む機会を設け、体力の向上を図る。また、保健の学習や薬物乱用防止教室等をとおして、健康に気を付けて生活することができるようにする。

(2) 保護者が「通わせてよかった」、地域の方が「あってよかった」と思え学校とするために

①地域と触れ合い、地域に学ぶ

地域の中での校外学習等、地域のリソースを教育に結び付ける。

②保護者・PTA との連携

学校・保護者・PTA が一体となった児童の育成を推進する。

③安全教育の充実

安全教育(生活安全・交通安全・災害安全)について、保護者・地域と連携しながら、あらゆる機会を通して、児童の危険予測・回避能力を高める。

④積極的な情報発信

「土曜公開」の機会を生かし、豊成小の取組、児童の成長を保護者・地域の方々に理解していただく。また、学校便り・学年便り・ホームページ等を通し、学校の様子を積極的に発信する。特にホームページは、タイムリーな情報掲載に努める。

(3) 教職員にとって「自分の居場所」となるために

①互いを尊重し、主体的に行動する教職員

主幹教諭・指導教諭及び主任教諭がミドルリーダーとなり、教職員一人一人がそれぞれのよさを発揮して、互いに認め合うチーム運営をしていく。

②人権尊重とサービスの厳正

日々の授業、学級経営等において、児童に対する適切な配慮を行えるよう、適時、自身の人権感覚を見つめ直す機会を設定する。また、定期的な研修を通して、サービスの厳正を徹底する。

③OJT の推進

日常的にお互いの授業を見合う風土を作っていく。そして、授業の様子、指導上の悩みなどを互いに伝え合えるよう、OJT の充実を図る。

全教職員で全校の児童を育てていく。教職員一人一人の特性を生かし、学年・学級の枠を越え、一丸となって教育活動を進めていく。